

令和3年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・鑑賞活動を充実させ、友達の作品のよさを見つけ合うようにして表現の工夫を共有することができた。
- ・題材設定を工夫し、創造的な技能を高め、喜びを味わえる題材を選んだことにより、児童の意欲が高まった。
- ・身近な材料を用い、作品製作を行うことで、作品作りのイメージが高まった。
- ・安全に配慮しながら、紙、はさみ、のり、色鉛筆、カラーペン、絵の具などの教材・教具の使い方を、作品作りを通して正しく理解させることができた。
- ・年間を通して、ICT を活用し道具の正しい使い方を指導することで、正しく理解できている児童の割合が昨年度よりも高くなった。
- ・参考資料を多数用意したことにより、発想力に課題のある児童を支援することができた。

(2) 課題

- ・学習カードを作成し、作品の発表会を行うことができなかった。友達の作品を紹介したり鑑賞し合ったりする活動を取り入れたい。
- ・発想力に課題のある児童に対する指導の工夫が必要である。
- ・学習において課題のある児童に対して、個に応じた指導を行う時間を設定する必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・使用する道具を選択させることで自由に発想できるような場を設ける。(学習形態) ・教材・教具の使い方を正しく理解させ、安全に作品づくりに取り組ませる。(指導計画) 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な材料を用いて形や色のイメージをもちやすくする。(学習形態) ・イメージが膨らむようなアイディアを出し合う場を設定する。(学習形態) ・アイディアのヒントとなるような言葉を板書する。(学習形態) ・友達の作品を紹介し、工夫された表現や面白い作品を広める。(授業構成) ・お互いの表し方のよさを感じ取れるように、学習カードを作成したり、ICT（写真）を活用したりして作品の発表会を行う。(授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・作り出す喜びや、作った後に達成感や充実感を味わえる題材を選ぶ。(指導計画) ・細かい作業のみではなく、ダイナミックな活動やのびのびと楽しめる活動を取り入れる。(指導計画)

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自由な発想を作品に反映できるように、道具の使い方を知る場を設けたり、ICTを活用したりする。(指導計画) ・のこぎりや金づち、彫刻刀などの新しい用具について、安全で正しい使い方が身に付くように全体指導と同時に個々の使い方合った助言をする。(学習形態) 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料を提示し、発想が広がるよう助言と実演を交えて指導をする。(学習形態) ・お互いの作品のよさを感じ取れるように、個人のタブレットも使いながら作品を鑑賞し、発表する機会を多く設定する。(指導計画) 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動できるように、ICTの活用や、簡潔な指示、図工ルール徹底を行う。(授業構成) ・作ったもので遊べたり、生活の中で使えたりするものも扱い、表現への意欲を高める題材を設定する。(指導計画)

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・技能の定着を図るために、単元の中で道具の使い方や色の塗り方などを練習する時間を設ける。(授業構成) ・既習事項としてこれまで経験したことや、材料や用具の使い方を自分の表現に活かせるような自由度の高い題材を設定する。(指導計画) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人のタブレットを使って作品の資料収集や、作品の鑑賞に活用し、発想や構想の力を高めていく。(学習形態) ・作品のよさを感じ取ることができるよう、個人のタブレットも使いながら作品を鑑賞し、発表する機会を多く設定する。(指導計画) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもち、興味や関心が持続するように、導入時にICT機器を活用する。(学習形態) ・個々の主題を大切に、これまでの経験を活かした自己表現ができる題材を多く設定する。(指導計画)

4 今年度授業改善プラン成果と課題

(1) 成果

- ・用具の使い方については、動画や十分な練習時間の確保を通して安全で正しい使用方法を学習することができた。(授業構成)
- ・各学年とも、前学年で扱った用具や材料を繰り返し経験することで、既習事項を活かした発展的な使い方につながった。(指導計画)
- ・個人のタブレットを使用した資料収集を経験することで、ICTを活用した授業に児童が慣れることができた。(学習形態)
- ・3学期の学習作品展に向けて、児童に製作に対する意欲をもち、目標をもって取り組むことができた。(指導計画)
- ・鑑賞について、タブレットを使用した作品鑑賞と、学習作品展等で実物を見る鑑賞と2つの形態を実施でき、多様な鑑賞の経験から児童の鑑賞の力を多面的に伸ばすことができた。(学習形態)

(2) 課題

- タブレットを使用した資料収集は、情報が簡単に手に入る反面、アイデアを自分で再構成していく力が弱くなるため、効果的な使い方を検討する必要がある。(指導計画)
- 個々の表したいことを大切に授業を進める場合、進度に差が生まれる。それを補うための個別指導の時間が必要になるが、放課後などに確保することは感染症対策の点からも難しかった。(授業構成)
- 場所や人との距離の関係からダイナミックな活動は取り入れにくかった。